日本のフォスター　中山晋平先生を偲ぶ

『信州の人脈』（信濃毎日新聞社編）を中心に

[一]今なぜ中山晋平か……超高齢化社会　　イ．健康維持・生き甲斐　→老化予防、カラオケ歌謡曲
ロ．福祉・介護　→童心への回帰、郷愁・童謡

[二]年　表……明治20年（1887）～昭和27年（1952）65才　下高井郡日野村（現中野市）出身

[三]作品抜粋　6000曲の中から

（イ）劇中歌・歌謡曲	（ロ）童　謡	（ハ）新民謡
カチューシャの唄・東京行進曲	てるてる坊主・背くらべ	東京音頭・諏訪小唄
ゴンドラの唄・鉾をおさめて	あめふり・証城寺の狸ばやし	天竜下れば・千曲〃
さすらいの唄・波浮の港	まりと殿様・里ごころ	須坂小唄・柳原〃
船頭小唄・　：　：	雨降りお月さん・　：　：	大町〃・　：　：

[四]生い立ち

中島実之助の4男。晋平4年生の時に父死亡（43才）。同年小諸の呉服屋に奉公に。病弱で帰郷。
小学校卒業（成績一番・音楽得意）。長野師範学校講習科入学。明治36年、代用教員に。
明治38年12月、18才で上京（島村抱月宅）。明治41年、東京音楽学校入学。45年、21才でピアノ科卒業。
浅草小学校に就職。　※学校唱歌の文語調、軍国調に疑問をいだく。

[五]作曲活動開始

（イ）**劇中歌・歌謡曲**……日本における歌謡曲第一号誕生……**「カチューシャの唄」**トルストイの名作・「復活」を脚色した芝居の劇中歌（作詞・島村抱月・相馬御風、歌・松井須磨子）大正3年晋平27才。続いて**「ゴンドラの唄」**（大正5年）**「さすらいの唄」、「船頭小唄」**（大正6年）が大ヒットする。大正モダニズム、大正ロマンの象徴といわれる。一方では退廃的であるとも。

（ロ）**童　謡**……**「てるてる坊主」**（大正6年）、作詞・浅原六朗。14年間の教員生活で児童たちが何故学校唱歌を歌わないかを考え、児童達が楽しく歌える歌の創作活動に入る。

※ 大正8年、「赤い鳥　童謡運動」おこる。　作詞者……北原白秋、西条八十、野口雨情、武井武雄
作曲者・成田為三、弘田竜太郎、山田耕作、草川信、中山晋平

（ハ）**新民謡**……**「東京音頭」、「天竜下れば」**（昭和2年）……日本ビクターの専属作曲家となり、西条八十とコンビでひとりでも多くの日本人が楽しく歌える歌を目指して、新しい音楽の世界を拓く。

[六]終焉……昭和27年11月、飯山市の「柳原音頭」指導中に倒れる。12月30日、胆のう炎にて逝去。

[七]評価・感想

（イ）**日本のフォスター**……昭和26年スタートのNHKラジオの人気番組「なつかしのメロディー」でも最も多く登場。また、昭和50年TBS発刊の「美しき日本の歌」にも日本人作曲家として最多に採用されている。

特に大正時代を代表する「カチューシャの唄」、「ゴンドラの唄」、「船頭小唄」は、大衆の心をしっかりつかみ、日本のフォスターと呼ばれるに相応しい作曲家と評価された。……（『信州の人脈』より）

（ロ）**今日の歌謡曲の母体を作る**……明治時代の“はやり唄”に変わって日露戦争（明治38年）後の新しい感覚をもった歌謡曲の形式をつくりあげ、今日の歌謡曲の原型をつくった。……（NHK放送日本史より）

（ハ）**歌謡曲第一号「カチューシャの唄」**……この歌こそが、西洋音楽のスタイルを身にまといながら、歌舞伎がもっていた舞台の活力を引きついだ日本で最初の歌謡曲、すなわち日本の歌謡曲第一号だったのです。「カチューシャの唄」のヒットは、日本音楽史上の大革命でした。（作詞家・なかにし礼）

（ニ）**軟弱流行歌**……「カチューシャの唄」の大流行が、芸術座を堕落させ、関東大震災（大正14年）後に流行した「船頭小唄」は軟弱流行歌である。（音楽評論家・堀内敬三）

（ホ）**自己の信念をつらぬく**……晋平は曲風から軟弱だったように誤解されているが、全貌を知るとあらためて頭がさがる。きびしかった家風、生活態度と世間からの非難、軍部からの圧力にも屈せず、終始晋平調を貫いた。その意志の強さに敬意を払う。（旧中野市長・丸山久雄）

（ヘ）**表彰**……昭和28年「文部大臣芸術選奨」受賞。

※**フォスター**（S・Foster）（1826～1864）アメリカの作曲家……19世紀の素朴なアメリカの風土にねざした数々の歌曲をつくる。世界中で愛唱される。「オールド・ブラック・ジョー」、「マイ・オールド・ケンタッキーホーム」、「草競馬」他。